全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立日新小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 71人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率，平均正答数の全体的な分布状，中央値，標準偏差のいずれも全国とほぼ同じである。
平均正答率（本校 68／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答率，平均正答数の全体的な分布状，中央値，標準偏差のいずれも全国とほぼ同じである。
平均正答率（本校 55／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【C 読むこと】</p> <p>○登場人物の心情について，情景描写を基に捉えることは，全国平均と比べ，やや課題がある。</p> <p>4 『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に，その一文が心に残った理由として適切なものを選択する。 (69.0/74.0)</p> <p>【我が国の言語文化に関する事項】</p> <p>○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し，使うことは，全国平均と比べ，やや課題がある。</p> <p>6 慣用句の意味の使い方として，適切なものを選択する。（心を打たれる） (84.5/90.4)</p>	<p>【言葉の口調や使い方に関する事項】</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことは，全国平均と比べ，課題がある。</p> <p>8 ア 文中で漢字を使う（せい造） (60.6/73.4)</p> <p>イ 文中で漢字を使う（せつ備） (73.2/82.2)</p> <p>ただし，</p> <p>エ 文中で漢字を使う（かんり）は全国平均と比べ，概ねできている。 (71.8/65.0)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○話し合いの参加者として，質問の意図を捉えることは，概ねできている。</p> <p>1 一 話し合いの様子の一部から，話し手の発言の意図として，適切なものを選択する。 (84.3/82.5)</p> <p>○話し手の意図を聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力は，課題がある。</p> <p>1 三 これから言葉をどのように使っていきたいかについて，話し手のいずれかの意見を取り上げ，□を書く。 (32.9/33.8)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○目的や意図に応じて，文章全体の構成の効果を考えることは，全国平均と比べ，やや課題がある。</p> <p>2 一 「おすすめする文章」の最初の部分に，そのように書いた理由として適切なものを選択する。 (52.9/57.6)</p>	<p>○推薦するためには，他のものと比較して書くことで良さが伝わると捉えることは，全国平均と比べ，概ねできている。</p> <p>2 三 「紹介する文章」を基にして，「おすすめする文章」を書く時の工夫として，適切なものを選択する。 (77.1/70.8)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○目的に応じて，複数の本や文章などを選んで読むことは，全国平均と比べ，よくできている。</p> <p>3 一 山下さんは，どのようなことが知りたくて，自伝を読んだのか，その説明として適切なものを選択する。 (61.4/49.4)</p> <p>○目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことは，課題がある。</p> <p>3 二 「伝記の一部」を読んで，最も心ひかれた一文とその理由の文章の□に入る内容を書く。 (41.4/52.3)</p>

3. 児童アンケート調査に，国語に関する項目がありませんでした。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ下位層がやや少なく、上位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 68／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答率は全国とほぼ同じであるが、全体的な分布状況は全国と比べ中～上位層にかけて多く分布している。

平均正答率（本校 54／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○小数の除法の意味について理解することは、全国平均と比べ、よくできている。 2 答えが$12 \div 0.8$の式で求められる問題を選ぶ。(56.3/39.9)</p> <p>【量と測定】 ○単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解することは、全国平均と比べ、よくできている。 4 (2) ㊸と㊹の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。(62.0/50.1)</p> <p>○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方は、よくできている。 4 (1) 同面積の㊺と㊻の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ。(95.8/87.8)</p> <p>【図形】 ○円周率の意味を理解することは、課題がある。 7 (1) 円周率を求める正しい式を選ぶ。(31.0/41.6)</p>	<p>【量と測定・数量関係】 ○1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることは、全国平均と比べよくできている。 1 (3) 針金1mの重さを求める式を選ぶ(76.1/65.3)</p> <p>【図形・数量関係】 ○直径の長さと同周の長さの関係について理解することは、全国平均と比べ、概ねできている。 7 (2) 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ。(62.0/55.6)</p> <p>【数と計算】 ○1あたりの大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことは、全国平均と比べ、やや課題がある。 1 (2) 針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ。(64.8/66.7)</p> <p>○十進位取り記数法で表された数の大小について理解することは、全国平均と比べ、やや課題がある。 3 3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く。(74.6/76.4)</p>

算数B	特徴がみられた設問
<p>【図形】 ○敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出すことは、概ねできている。 1 (1) 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見出すことができる図形として、正しいものを選ぶ。(82.9/71.7)</p> <p>○図形の構成要素や性質を基にして、記述することは、課題がある。 1 (2) 一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く。(48.6/48.2)</p> <p>【数と計量】 ○示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることは、概ねできている。 2 (1) 全体で使える時間の中で「ルールの説明」に使える時間は何かを書く。(81.4/70.5)</p> <p>【数量関係】 ○メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することは課題がある。</p>	<p>3 (1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのか書く。(15.7/20.7)</p> <p>○グラフから読み取ることができることを、適切に判断することは、課題がある。 3 (2) 一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ。(21.4/23.9)</p> <p>【数と計算】 ○示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述することは、全国平均と比べ、概ねできている。 4 (2) 横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く。(68.6/59.5)</p> <p>○示された数量を関連付け根拠を明確にして記述することは、課題がある。 5 (1) 横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く。(44.3/43.2)</p>

3. 児童アンケート調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	64.8	64.0		0.8
算数の勉強は大切だと思いますか	95.8	92.1		3.7
算数の授業の内容はよく分かりますか	91.5	83.4	◇	8.1
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	78.9	74.3		4.6
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.5	90.3		1.2
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	46.5	64.4	○	17.9
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	71.8	78.4	◇	6.6
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	70.4	78.5	◇	8.1
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	67.6	80.4	○	12.8
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	73.3	85.8	○	12.5

- 「算数の勉強は好きですか」や「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の設問については、全国より上回っており、算数に対して関心が高いようである。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」の設問については、全国に比べて高い値である。少人数指導の効果が現れているように思われる。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の設問については、全国より18ポイントも低い値である。子どもたちの普段の生活と結びつけた授業内容の工夫が必要である。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」や「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の設問は全国より低い値である。昨年より算数科を授業研究の中心にして改善に取り組んではいるが、児童自らが問題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返りより良く解決したりするような「児童が主体的に学び、学習に取り組む態度の育成」が必要であると考える。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」や「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の設問は全国より13ポイント近く低い値である。既習の算数に関する事象や日常生活や社会に関わる事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、より良い方法を見いだしたりするなどの「深い学び」今後の授業改善において実現していかななくてはならないと考える。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- 平均正答率は全国と比べ高い数値になっている。また、全体的な分布状況は全国と比べ中～上位層が多く分布している。

平均正答率（本校 66／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）

- 主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題ともに、平均正答率は全国と比べ高い数値になっている。特に、主として「知識」に関する問題では、設問それぞれの平均正答率が全国と比べ+12.1%、+6.5%、+13.4%、と大きく上回った。

主として「知識」に関する問題（本校 89／泉佐野市 77／大阪府 75／全国 78.0）

主として「活用」に関する問題（本校 60／泉佐野市 53／大阪府 53／全国 56.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特徴がみられた設問
<p>【生命】 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することは、よくできている。 1（3） 腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く（91.5／79.4）</p> <p>【地球】 ○積作用について、科学的な言葉や概念を理解することは、よくできている。 2（1） 流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ（90.1／83.6）</p>	<p>【物質】 ○ろ過の適切な操作方法を身に付けているは、概ねできている。 4（1） ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ（84.5／71.1）</p>

理科「活用」	特徴がみられた設問
<p>【生命】 ○調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することは、概ねできている。 1（2） 鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのか選ぶ（83.1／76.2）</p> <p>【地球】 ○土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、実験を構想することは、全国平均と比べ、やや課題がある。 2（2） 流れる水の働きによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ（53.5／55.4）</p>	<p>【地球】 ○より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することは、課題がある。 2（3） 一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く（28.2／20.1）</p> <p>【エネルギー】 ○乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することは、全国平均と比べ概ねできている。 3（1） 風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ（70.4／63.5）</p>

3. 児童アンケート調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	71.8	83.5	○	11.7
理科の勉強は大切だと思いますか	71.8	85.4	○	13.6
理科の授業の内容はよく分かりますか	84.5	89.4		4.9
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	77.4	87.0	◇	9.6
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	50.7	64.7	○	14.0
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	56.4	72.9	○	16.5
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか	16.9	26.1	◇	9.2
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	70.5	75.2		4.7
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	57.7	68.1	○	10.4
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	39.4	54.3	○	15.1
理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	69.0	89.1	○	20.1
今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いませんか	74.6	82.0	◇	7.4

※学力調査の平均正答率では全国平均を6ポイントあまり上回っていますが、学習状況調査の結果は、全ての項目で全国平均を下回る結果となりました。今後の授業改善につなげていきたいと考えます。

○「理科の勉強は好きですか」の設問については、全国に比べ12ポイント近く低い値です。子どもたちの「理科ばなれ」がどんどん進んでいるように思います。

○「理科の勉強は大切だと思いますか」や「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問については、全国に比べ14～17ポイント近く低い値です。日常生活の中で経験する、自然現象や科学的知識の理解を高めていく必要を感じます。

○「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」の設問については、全国に比べ10ポイント近く低い値です。遠足等の機会を有効に使い、自然に親しませるような活動を設けていきます。

○「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」の設問については、全国に比べ20ポイント以上低い値です。今後の授業内容を見直し、実験の計画や予想を子どもたち自身が行い、事後には振り返りを行うような観察や実験をより多く行う必要があります。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童アンケート調査より）

児童アンケート調査より、本校児童の意識調査を4択（1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）で選ぶものについては、選択肢1と2は同じ肯定的な回答と捉えて回答率を示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○朝食の摂取率や起床時刻の割合はやや低いものの概ね規則正しい生活習慣は身につけている。</p> <p>○ニュース番組はよく見ており、社会の動きに関心を持っている。</p> <p>○地域行事への参加率やボランティア活動への参加率は全国に比べて10ポイント以上低い。</p>	<p>○朝食を毎日食べていますか (87.4/94.5)</p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (73.3/77.0)</p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (88.7/88.8)</p> <p>○テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか (87.3/86.2)</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか (50.7/62.7)</p> <p>○地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか (52.1/62.6)</p>
【家庭学習の様子】	<p>○自分で計画を立てて勉強することや学校の授業の予習・復習をしている割合は全国に比べて低い。</p> <p>○家での自学自習に教科書を使う割合は全国に比べてやや低い。</p>	<p>○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか (63.4/67.6)</p> <p>○家で、学校の宿題をしていますか (100/97.1)</p> <p>○家で、学校の授業の予習・復習をしていますか (57.7/62.6)</p> <p>○家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか (67.6/69.9)</p>
【学校での生活や学習の様子】	<p>○学校生活ではきまりをよく守り、調べ学習や課題解決において全国の割合より高く、授業に積極的に取り組んでいるように思われる。</p> <p>○話し合い活動においては、全国の割合に比べてやや低く、授業の工夫が必要である。</p>	<p>○学校のきまりを守っていますか (94.4/89.5)</p> <p>○授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか (80.3/74.4)</p> <p>○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか (78.9/76.7)</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか (74.7/77.7)</p>
【自己肯定感】	<p>○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いでは、全国の割合よりも10ポイントも低く自尊感情の低さがうかがわれる。</p> <p>○社会貢献に対する意識も全国の割合に比べて19ポイント近く低い。</p>	<p>○自分には、よいところがあると思いますか (73.3/84.0)</p> <p>○将来の夢や目標を持っていますか (77.5/85.1)</p> <p>○人の役に立つ人間になりたいと思いますか (94.4/95.2)</p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか (31.0/49.9)</p>

本校の取組

◎これまでの取組み

一昨年度まで本校では、児童の学力実態を踏まえ、「自分の考えをもち伝え合うコミュニケーション能力の育成」を研究主題として、4年間、国語科を中心に研究授業や公開授業等を行い教員の授業力の向上に取り組んできました。そして、昨年度からは、「基礎・基本を身につけ、自ら考え、表現できる子どもの育成～「わかった・できた」喜びを感じられる算数学習をめざして～」を研究主題として、算数科を中心に研究授業や公開授業、校内研修会等を行い教員の授業力の向上に取り組んでいます。

少人数による個に応じたきめ細かな指導や基礎・基本を徹底した学習や子どもたちの学習態度を養っていくための学習規律の徹底などの取組みも進めてきました。

今年度の全国学力調査では、国語Aを除く4つの実施科目において、全国の平均正答率を上回る結果を得ることができました。中でも、理科においては、全国の平均正答率を大きく上回り、これまでの取組みに一定の成果が得られたように感じます。

しかし、テストの点数とは裏腹に、児童アンケート調査の回答には大きな課題が見られました。中でも、算数科や理科における、「役に立つ」という項目においては、多くの児童が否定的に思い、学習したことと日常生活との間に乖離が見られています。さらに、活動や実験を通して学んだ経験についても、否定的に回答する児童が多く見られ、教員との意識の差を感じる結果になりました。これらの結果から、基礎的な学力をつけることはもとより、活動や実験等の体験学習をさらに強化しながら、学習と日常との関わり合いなどについても考える活動を取り入れていきます。

◎これからの取組み

本校では、平成30年度全国学力・学習状況調査の分析結果を基に、主に次に示すような点を中心に課題克服に向けて取り組んでいきたいと考えます。

国語

読むことの指導では、低学年から、言葉を大切にし、どの言葉から読み取ったのか根拠をしめす指導を積み重ねていきます。

漢字指導では、文づくりで、間違えやすい漢字を使った文と一緒に集めたり、他の使い方の文を作ったりする機会を多く取り入れていきます。また、作文指導では、校正の段階で、習った漢字をいくつ使ったか数字で表したり、ふり返りなどで、実際にどれだけ習った漢字を使っているかを評価して学習意欲を高めていきます。

算数

基礎・基本の定着については、日々の授業や宿題などで定着を図っていますが、それだけでは取り組める時間が限られてきます。そうすると、期間を空けると忘れてたり、また違った単元の学習が始まると先に習ったことと混同したりしてしまう児童が少なくありません。そこで、朝の学習や自学の取り組み方を見直し、学年・少人数指導担当・研究推進委員会で、これまで習った計算をおりませながら、復習できるミニプリント、自学の手引きを作成し活用していきます。

授業では、自力解決型の授業モデルを参考に、自分で問題に向かう自力解決の時間、相手に自分の考えを説明する時間などを多く取り入れ、自己と他者との様々な考えを吟味するような数学的な思考力の育成にも取り組んでいきます。

理科

与えられた課題から、必要な実験道具や方法を導きだし、それを使った実験を日々の授業で行っています。そして実験の結果をもとにグループ内考察を行い、まとめにつながる取組みをしています。

実験器具や方法を自分達で導き出し、実際に実験につなげられる取組みを続けている結果、知識が身につけてきています。しかし、知識を活かした記述においては課題がみられます。実験の結果をもとに考察を行ってはいますが、グループ内での考察の取組みだけではたりないということが理由として考えられます。

今後の方向性として、実験結果をもとに、全児童が自分自身で考察につなげ記述できる時間を設けるなど、一人ひとりが考えをまとめる時間を増やした授業をめざしていこうと思います。